倭讀七部集

[illegible]

六

へ 5
5625
6

門へ5
號5625
卷6

荒野集巻之六

雜

年中行夏内十二句

供屠蘇白散　荷今

いたゞきもとゝのふ人は身

春月祭

とゝのふたるの盃はぬるし

石清水臨時祭

宮内省圖書寮

[illegible]

灌佛

[illegible]

端午

[illegible]

施茅

[illegible]

乞巧奠

[illegible]

[illegible]

駒迎

[illegible]

撰出

[illegible]

十月更衣

[illegible]

五節

[illegible]

遠儀

[illegible]

詩題十二句

今日不知誰計會
春風春水一時來

[illegible]

白片梅浮渕水

野水

[illegible]

春來無伴閑遊少
花賣[illegible]

花下忘帰因義景
[illegible]

留春春不留春歸人
寂寞

[illegible]

巖風吹被衣
不寒復不熱
脫去松下坐
池脫蓮芳謝
蓮のまもりのもとにかくれ
暑月貧家何処有客
來唯贈北窓風
[illegible]

大底四時心總苦就中斷腸是秋天
[illegible]
夜來風雨後秋气颯然新
[illegible]
遲々鐘漏初夜長
耿々星河欲曙天
[illegible]
殘燈孤枕雨墻斜光月穿牖

[illegible]

一方物　秋霜能壊色

白[illegible]

十月　江南天気好

可憐冬景似春花

こがらしの[illegible]息つく[illegible]

寂寞深村夜残雪中[illegible]

[illegible]

白頭夜礼佛名経

佛衆の礼[illegible]腰[illegible]く白髮[illegible]

[illegible]

[illegible]

鏘鏘目立　舟泉

かき流しの[illegible]

付　木実

五月雨の頃の熟睡人の夢

釣瓶縄折

かへるちやはのくるくるの秋の星

糊賣

あさぢふのをぢかの角つきの

馬糞撥

こがらしの松ぢかぶらうきて

越人

李夫人

魂在何許香煙引到焚處

かけ絡の抱きつのるかな

楊貴妃

雲鬢半偏新睡覺花

冠不整下堂

ちる風に芋掘る家白かな

昭陽人

小頭鞋履窄、衣裳衣青紫

點眉々細長外人不見々應笑

西施

宮中拾得娥眉斧不獻吾

君是愛君

王昭君

王貌風流勝畫圖

一目留主

卯

寂やの牧や佛供穢火

辰

杜若ん繪書ん

己

釣雪

午

未

蝉乃声々武家多食ものなり

申

五月雨や鶏と雨あがり

雨ふるなり生きとうもの

見飛ぶ

山猟

樹水

簾乃上ゟ我ゟ外あるなれさま

野鳥

鶯突ぬけ引ぬきは有ー　弘　児竹

星虫

枝ものゝ虫ゟ出ル蜀漆か那　倉咕

海奠

おもしろや鄒引き上げ盃の月　仝

川奠

秋の昏稽川くの火ぬるひ　含昨

牛馬四足是謂天落馬首穿牛

鼻是謂人

一方を極たく桃花繼ぎ郡　越人

藏舟於壑藏山於澤謂之

固然而夜半有力者負

之而走

作走の市にうるさい

絶聖棄知大盜乃止

七夕ながめつるもなるもし

鋭者矢

共ゑをなるものをなやる　樗夕

鈍者壽

鶯の乃ちなるとふるゝ水　市山

藤屋

ふるさとの梅むめはさるゝ枝より　一井

師直

うつくしく人まつゝくの荊ゆ　長虹

一休

落くのかゝられのゝ山月の雲　湍水

法然

ひとすゝ乃ちゝ流るゝ水のあさ　蘭彈

山岩

彩ゝ乃ちを散ゝて減る岩の角　湍水

海岩

苔ゝこそ流るゝ水のなるなれ　仝

曠野集巻之七

名所

つくまのすみ奥之院竜門寺　杜国

——奥院や或ひとり大江山　荷兮

かゝ橋乃松ちりて朧なく　芭蕉

芦衆一把ゆゝしく切て陸奥の　瑞水

嵯峨はなくさのあゆゝぬ盛　荷兮

琵琶橋眺望

やゝ殘る男嶽さもあぶ陽ちるる　合歩

宮ゐてゝ宮ゐてゝ多ゝ雨　宗祇

義濃國[illegible]所の山[illegible]

[illegible]　杜國

麦うつや門[illegible]もあるさゝの　童五

五月雨くかゝ神あるのや閉門橋　芭蕉

湖乃ゝ海ゝ[illegible]五月雨　玄來

牛もるる色[illegible]のあさりの月雨　一髮

角田川ゝ　眞室

いさのは神[illegible]の跡[illegible]ひく　破笠

みゝのゝいゝく秋ゝ夏の音　芭蕉

いさらゐも海ゝさゝ[illegible]なの[illegible]　越人

夕月や杖さゝ[illegible]角田川

九月十三夜

角ゝ[illegible]ゝ富士あゝ[illegible]月ゝ　素堂

[illegible]　胡及

[illegible]　閑支

武[illegible]　舟泉

湖[illegible]　嵩白

[illegible]　行藤　隨支

むさゝの[illegible]　陵恵

[illegible]と生[illegible]　俊似

みさゝの稲[illegible]　東嶌　一英

雪ちる富士芝[illegible]　湍水

[illegible]　野水

星崎の[illegible]　芭蕉

[illegible]　如行

旅

雲雀[illegible]上[illegible]　芭蕉

大和国[illegible]尾村[illegible]

花の陰[illegible]　全

揺咲星を眠るとまりけり　夕帆
日の入や舟こぎ行く桃のむ　一髮
のどかなる湊の夏の生さうな　荷兮
出る川脱ぐ後たひぬ衣こうく　芭蕉

あるる人の餞別

かりそめに涙あるべき別かな　除風
寂しさ盛り食糧なるべき　冬松
数をこそすくらに思ふ藤袴　昌碧

五月雨や柱月を残す市弦家　松芳
夕ぐれにとの天名ゝ一ぱいの雨　傘下

芭蕉去る頃

稲妻にさしつきぬるうの船　釣雪
なるさ〳〵こく枝さすの秋の蟬　一井
あるる風さびしの飛ぶ野水　野水
物いさ〳〵岸の柳のうるさく　舟泉
雪ちる沈くすまるる松さんぬる　嵐雪

[illegible]

文級乃月ちこ人ちるる秋乃 荷今

越人孫ちるるし文て弟ちる[illegible]

月汀し脇ちれつちる馬乃うへ 野水

於てる秋川於てりつちれる本萩乃 芭蕉

[illegible]乃墓ちし数し秋のいち 路通

[illegible]

於てるるし

將殉桶に麻をつきて秋の山 荷今

[illegible]稲ちる京ちる 丟

入月ちるるちるいさやか 丟寮

[illegible]ちる秋ちる形 一井

[illegible]人ちるるるとて

澤菴乃墓ちる秋の秋の雪 文鱗

草枕ちるるしるるの麦 芭蕉

[illegible]乃ちる村[illegible]秋 津島 常秀

[illegible]　荷兮

[illegible]　野水

其角と[illegible]るとき

[illegible]　荷兮

[illegible]　越人

[illegible]　傘下

生人の[illegible]の[illegible]　宗因

越人と[illegible]の澤にて

[illegible]　芭蕉

[illegible]　同

述懐

[illegible]

きゆるはるの水もきこえてそらも地　路通

子を獨守りて回る[illegible]の[illegible]　皮肉

余所の回れ塵入ぬる[illegible]　唐梧

ゐる野あるて
女なるたゝみさゝやり奥の院　杜國
物ゝくいあるりるも食ふ　梅舌

高野にて

父母のきゝとゝしく恵ましく　雑の色　芭蕉
あぢはひさすがらのついふ　荷兮
きゝふ入湯ともひゝり一盃　同
一なのなすしあるゝ仏なのあ　杏雨

扇衣を編まるて法華やの夏　杉風
仏ゝや白髪ときかゝく歴年賛　亀洞

九月十日ふ豊のまゝて

かくれあゝやゝ宝家の中ふ残る菊　嵐雪
このゝゝ物を貪るまゝくの坊の秋　暁雁

人のいやゝをゝゝ

さゝゝゝゝあゝ神ゝ元キの霊社参　芭蕉

四星のくゝ去ゆのゝ

こがらしの吹くやあるかゆひ　杜國

鎌倉建長寺にまうでて

吹きちらす名ちはのはちやな　越人

あるじの方とさかりはてしやとし

吹ぬきやあらしはしらく一義

あるじ神なほ吹ぬきやあらしはしらく　荷兮

ちりのこりはつ雪やうつり

さらしちりの腰巾やゆく鐘の響　氣霽

積の穴ふり敷て足さす俤ぬけ　去來

月や遠く耳やちのくるとしの夜　西武

ぬくもりや腰の抜ける法華寺　芭蕉

ちりあくの吹ぬきを松のかぜ　除風

老とまり賛をよろこぶ

ひ年や敷くもりをかくしけり　越人

恋

恋の野くらある人の素ぬ　伊勢　一有妻

きぬ〻くや余のとくあとを時雨 除風

数屋あく霧のわもるこゝろの秋 長虹

むしてのあ月くゝる我ぬゝつる 文淵

虫てにい神をいてゝゝる女う那 冬文

さゝひあ妹う恒ゝら蓋ゝり 心棘

六宮粉代黛奥顔色

雪園の稲香雨安や月の秋 長虹

一夕くゝを人待のあ故をゝう那 尚白

さゝゝるかく

つまゝりゝさあゝゝゝ神ゝ女ゝ毛 荷今

きゝるゝのゝゝゝゝ屋ゝる つまゝゝの香 小春

妻の気ゝあゝゝゝゝ神遠ゝ 越く

松の中時ゝ猿のゝゝゝゝ 俊似

あゝもゝ火焚をゝくゝゝゝ 舟泉

ゝゝゝくゝ焼ゝゝゝ神ゝ 嵐蓑

山畑ゝものゝゝゝ華ゝ引 松芳

こさぬ〳〵をとこ数ふるとしたりけり　冬松

わたらし〳〵やまぬ人の出物哉　昌碧

奥常

未朝く

貧乏をとこ軍学の弧仏処や　守武

世事迅速

咲つ咲つ花の下ちるまし　傘下

未朝く

南無阿弥陀仏　姫　兄順

松坂の浦霧ふる人の多きかな

ふるさとの山やしらる

橋乃ほとゝぎす　荷今

いまとの山道ふく

ものうくなかめ〳〵ふる雨の家　京　去來

あるじふるし　あり紙ふる雨ふりもきて

あるものの小瓶とゝゆるちきりうれ　荷今

世とともやく毒の名ぼりなる時
水無月の相のつゆ霜ふるへし　野水

辞世

あさ紙や竹篭一川主コ奉
子らとをくる紙なる時

仏と新のあらそふ一瀧り　落梧
一原野ふて
をくるるの世い所ゆのなるさし　釣雪

妻の逝善り

きくなの人てのを人ろ代るの世　自悦
季下ろ妻乃きまりしを
いるるく
絲ゝ紙すやかるへひとゆく小ぼろ　去來
コ奉　多きまりし後
その人ゝ鼠さくかくし秋の紙　其角
あくれるる子ち義紙を

おとこ山子やとりかくるゝ秋の雪　尚白

ある人の追善に

埋火をさはやなるみさの烹るにも　沾蕉

旅よてみちくさ人を

あハ雪やとてうあもらゝ河くれり　嵐蘭

ちりぬるを野くるゝ俳の名残　加賀小春

曠野集巻之八

釋教

伊勢にて

神垣や杉あはなりの涅槃像　芭蕉

貴ゝ高ゝ杉あはなりの杉ありけんそう　嵐蘭

西行上人五百歳忌

きりをとゝやとる梅の風　荷兮

杉の風遠忌

連翹や手折り日ぬ志ほ飛びうり　胡及

うつゝ青うつゝ物の葉うつゝ伝二王小　松芦

木履くゝ伝ひふみ雨乃花　杜國

伝ひこうもとうつて結くゝ花のもる　冬松

花うつゝ伝ひも伝ん塔さうの影　其角

夏享つちはへ屋の歳孫生月東照宮の別當
僧正の住房伝慈円大師近座執事法華
八講の伝ひし所きすの徳願はまりうつゝ
序品のうつゝ

散花の雨をむしうつゝ　越人

女房の願ひ所の花葉ひ伝ひ嘆き所

あつ龍女成仏の所うつゝ　ちのひあ也
白鳥かひ音の　ゝ仏ゝ

ほうつゝ也ゝ蓮うつゝ　同

和歌浦尾上のさみゝ咲ゝ　後似

古寺や法ゝさぬ草の草　一井

八雲うつゝ

海ゝ所ゝ所ゝ　千園

咲ゝ所ゝ所ゝ紅杜丹　一井

夏山や本陰しの江湖新屋　莖葉

奈良にて

薩摩乃国にて[illegible]の庵の子に　芭蕉

薩佛の[illegible]清し——[illegible]　尚白

[illegible]

腰のあたりを礼拝[illegible]山に　一雪

赤と来て菊一日の清[illegible]に　加賀　一笑

十如是

[illegible]の[illegible]通る[illegible]に　荷兮

昂身昂身佛

夏陰乃至夏陰たかんの佛に　愚益

ほろびや後の後おれる反衣　蒼彌

[illegible]施餓鬼棚　荷兮

[illegible]の[illegible]　探丸

石籠と[illegible]鬼の棚のくつまに　文里

[illegible]舟[illegible]向きり　亀洞

たまゆらあるに[illegible]　卜枝

[illegible]ちんとてん松乃原　釣雪

辛ホ施一切

桜花　[illegible]人[illegible]　俊似

仏書より大仏[illegible]　荷兮

垣越に引導[illegible]　卜枝

[illegible]四時の景物なりとて水鏡

[illegible]食不国[illegible]感し

[illegible]と[illegible]

[illegible]仏[illegible]ハ[illegible]　荷兮

あるるの鳥[illegible]

鼓[illegible]　其角

[illegible]月の舟　一井

[illegible]師　卜枝

人のかたにあ[illegible]

[illegible]

衣[illegible]一時雨　嵐蘭

鎌倉の西園寺[illegible]

[illegible]や直[illegible]　越人

古寺の雪

曙や伽藍の雪見四ひ　荷今

同

雪ずやうるる一王ゝ片　腕　後似

つゝりるきゝこいされもき雪江　一井

教寄する人のさハ戒数　文角

千觀ゝ馬もかせゝしゝものゝ他　其角

藥王品　七句

如寒者得火

月白ゝむゝの炉ゝゝゝゝゝ　胡及

如裸者得衣

雪乃日ゝ伽藍ゝゝゝゝゝ家

如商人得主

双兵乃あひてゝゝゝゝゝゝ

如子得母

竹ゝゝゝゝゝゝゝゝ

如渡得船

月影沈隣の板木さらさらより

如高得醫

かくしとさ侍るとて付句山ちるか

如晴得燈

秋のよもわすれぬとさして記さる

神祇

吉野山雪ふる柳子頭　釣雪

二月廿五日の夜の月に梅　荷今

ちんしゝと梅やゝうる夜の月　同

ゆるもあひてことし神の梅　亀洞

上下のさゝめやうゝの梅　昌碧

灯のかすのなりもの梅の中　釣雪

何のやうにかの梅のむ　越人
ゑくぼあるあるじとなる梅　舟泉
月代もたるかやうや梅の雪　雨桐
門あるつて梅ゑ蹴離れたり　宣五
淡路ゑ活人の梅さめ　玄察
ゑくぼ梅ゑ歯衆かとなる社　鈍可
宮乃後川後ゑ　李桃
出ゑ後の末社の中の梅　好葉

ほのゑ後社ゑ弟の中を通りより　玄察
袁宮社所をかくる天神うな　亀洞
破扇ゑ袁ゑあるうす淡稜ゑ　未学
川柴ゑ瘧　まゑ神ゑ山稜小　荷今
こかしや星社ゑ子覗ゑ神輿新盃　尚白
世月社恵氏須ゑこゑ　松芳
みゑ神や　祢宜のさゑる油筒　落梧

若宮奉納

さて志賀の浦なる姫ぜ神を不　利重

跡の方中し宮寺すなわち我の作不　野水

彩麻川若時の縁なる神不　昌碧

かつらきの神とふるさと庭火ぶ　村俊

橋杭や古枝うるる爆竹ひ　卜枝

祝

肩付きいくよなり絶せ年男　冬文

荷竹の四十乃まちく

炭焼もし作をこそ仕ゆるら　重五

君の代やこうくこそ玉つきに　越人

青苔の伊勢の神の石　傘下

いさこの酒の名は土と桜ぼのん　亀洞

の代の秋にあひひさこ茶　同

さてかく神ねりの人よりさきて

先祖へ梅の香の花　芭蕉